

|         |  |          |         |                             |         |
|---------|--|----------|---------|-----------------------------|---------|
| 科目分類    | 看護専門科目 応用看護  |          | 開講時期    | 3年                          | 前期      |
| 科目名     | 在宅看護学 I  |          |         |                             |         |
| 選択/必修   | 必修   | 単位数(時間数) | 2単位     | 60時間                        | 授業形態 講義 |
| 担当教員    | 家根 明子 ・ 横山 浩誉  |          |         |                             |         |
| メールアドレス | a-yane@tsuruga-nu.ac.jp(家根)<br>h-yokoyama@tsuruga-nu.ac.jp(横山) |          | オフィスアワー | 随時可能であるが、事前に予定を確認することが望ましい。 |         |

|      |  |
|------|--|
| 授業目的 | 在宅における療養者および家族を理解し、援助関係の構築をはかる。特に生活の場において、主体的に療養生活を送るための援助方法について学習する。その上で、療養者を中心にした家族のアセスメントとそれに基づく援助を創造できる能力を養う。  |
| 授業概要 | 療養者および家族への援助を行うために、療養者と家族の対応能力のアセスメントを行い、状況に応じた援助について事例を用いて学習する。また、在宅看護で対応する代表的疾患や状況への具体的な援助方法を学習する。   |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション、これまでの学びの確認<家根><br>第2回 療養者の特徴を踏まえた在宅看護-訪問することの意味と配慮<家根><br>第3回 在宅への訪問時の留意点と行動(演習)<家根><br>第4回 介護保険と訪問看護<家根><br>第5回 療養者の特徴を踏まえた在宅看護-社会資源活用の意義<家根><br>第6回 脳血管疾患後遺症による運動機能障害を持つ療養者への在宅看護<家根><br>第7回 脳血管疾患後遺症による運動機能障害を持つ療養者への在宅看護(演習)<横山・家根><br>第8回 在宅療養者の生活を捉えた支援:看護過程の展開①<家根><br>第9回 在宅療養者の生活を捉えた支援:看護過程の展開②<家根><br>第10回 在宅療養者への排泄支援<横山><br>第11回 在宅療養者への排泄支援:尿道留置カテーテル・排便(演習)<横山><br>第12回 認知機能障害を持つ療養者とその家族の在宅看護<家根><br>第13回 在宅療養者の生活を捉えた支援:看護過程の展開③(演習)<家根><br>第14回 慢性閉塞性肺疾患を持つ療養者の在宅看護<家根><br>第15回 慢性閉塞性肺疾患を持つ療養者の在宅看護:在宅酸素療法(演習)<家根><br>第16回 終末期にある療養者の在宅看護:中心静脈栄養<横山><br>第17回 在宅療養者の生活を捉えた支援:保健指導①<横山><br>第18回 がんによる排泄機能障害を持つ療養者の在宅看護<家根><br>第19回 がんによる排泄機能障害を持つ療養者の在宅看護:ストマケア(演習)< |

|                    |   |
|--------------------|---|
|                    | <p>家根&gt;</p> <p>第 20 回 小児期にある療養者とその家族の在宅看護：経管栄養&lt;横山&gt;</p> <p>第 21 回 在宅療養者の生活を捉えた支援：看護過程の展開④(演習)&lt;家根&gt;</p> <p>第 22 回 神経難病による呼吸機能障害を持つ療養者の在宅看護&lt;横山&gt;</p> <p>第 23 回 神経難病による呼吸機能障害を持つ療養者の在宅看護：人工呼吸療法<br/>(演習)&lt;横山&gt;</p> <p>第 24 回 在宅療養者の生活を捉えた支援：看護過程の展開⑤(演習)&lt;家根&gt;</p> <p>第 25 回 在宅療養者の生活を捉えた支援：保健指導②&lt;横山&gt;</p> <p>第 26・27 回 在宅療養者の生活を捉えた支援：看護過程の展開⑥⑦(演習)&lt;家根&gt;</p> <p>第 28 回 地域包括ケアシステムの構築を目指した在宅看護&lt;家根&gt;</p> <p>第 29 回 「生活の場」で提供される看護の特徴(グループワーク)&lt;家根&gt;</p> <p>第 30 回 まとめ：在宅療養者の全体像を捉えた支援&lt;家根&gt;</p> |
| 教材<br>参考文献等        | <p>教科書：河原加代子ほか 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院<br/>関連する資料はその都度配布する。</p> <p>参考書：福田素生ほか 系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院<br/>ほか授業のなかで適宜紹介する。</p>   |
| 成績評価<br>基準・方法      | <p>定期試験 (70%)，課題 (30%) で評価する。*授業の 2/3 の出席をもって評価の対象とする。また、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回とみなす。</p>  |
| 履修要件               | <p>在宅看護学概論を修得していること。</p>  |
| 留意事項<br>その他        | <p>本科目を修得していないと、在宅看護学実習 I は履修できません。<br/>・具体的な講義内容と準備学習は、第 1 回目に示す。</p>  |
| 実務経験のある<br>教員の教育方法 | <p>看護師としての在宅看護の経験を活かして、家族を含む療養者のアセスメントと療養生活の援助方法について講義および演習を行う。</p>   |